

第 22 回思川開発事業生態系保全委員会 議事要旨

日 時：令和 5 年 2 月 20 日（月） 13:30～15:40

場 所：チサンホテル宇都宮 会議室「ふじ」

出席者：三島次郎委員長、小笠原委員長代理、梅田信委員、櫻井正美委員、
酒井豊三郎委員、清水義彦委員、高橋滋委員、田瀬則雄委員、
宮崎淳一委員（WEB 参加）、柳澤紀夫委員（敬称略、委員五十音順）

議 事：

1. 環境保全対策及びモニタリング調査結果

事務局より、希少猛禽類・ムカシヤンマ・希少植物・環境保全地にかかるモニタリング結果、工事等に対する保全対策、これまでの調査結果等の総括及び今後の対応方針について説明し、了解された。了解に際し、以下のコメントがあった。

○オオタカについては、2羽の巣立ちが確認されれば、繁殖が成功したと見なすことができる。

○ムカシヤンマ幼虫の巣穴の形状を把握できると良い。

2. 思川開発事業モニタリング調査計画（案）

事務局より、次年度より開始するモニタリング調査について、モニタリング調査の概要、モニタリング調査項目、モニタリング調査計画（案）、モニタリングスケジュール（案）について説明し、了解された。了解に際し、以下のコメントがあった。

○景観については、二股山からの調査だけでなく、原石山跡地近傍の道路沿いからも調査することが望ましい。

○環境保全地については、モニタリング調査を行うだけでなく、現在の良好な環境を将来的に維持していくための管理方法を検討していく必要がある。

○ダム湖への外来魚の放流が懸念されることから、外来魚の放流を防止する対策を検討する必要がある。

○導水・送水による影響を把握するため、現地調査を行わない年度においては、漁業組合への聞き取りを行うなど、黒川と大芦川の魚類の状況を把握する必要がある。

○取水放流工固定堰の建設後は、中規模出水においても土砂の連続性が確保されることが、下流河川環境にとって重要である。

○ダム下流河川は、伏流の影響を受けることから、水温について留意する必要がある。

○導水時及び送水時の水質調査については、当該操作開始直後からの経時的な変化を捉えることができるよう、調査方法を工夫すると良い。

○自動監視装置による濁度の連続観測は、水質をモニタリングする上で重要であることから、健全な状態で観測できるよう、機器のメンテナンスやセンサー周りの土砂撤去を適切に行う必要がある。

以 上